

# 教宣 せぶん

## ありがとう 小原書記

名古屋地協の小原書記が本日付で退職されます。「ご家庭の事情」とのことですが、私たちのたたかいの屋台骨を支えていただいたことに、あらためて感謝いたします。本当にありがとうございました。

小原さんとは、昨年3月、東京地裁の判決が下された後の「2週間総行動」で、高松・倉敷・名古屋と行動を共にしたのが最初でした。遅れて高松入りした私のワガママを聞いていただき、休日の夜で営業している飲食店がほとんどないなか、なんとか開いている店を見つけてもらい、夜遅くまで付き合ってもらいました。また、他班がビラの配布枚数を急速に伸ばしていくなか、本部からの強いプレッシャーをものともせず、着実にスケジュールをこなし、最後は私たちに目標枚数をやり遂げさせていく仕事ぶりに、頼もしさを感じたことを覚えています。

2度参加させてもらった「栄総行動」でも、常に中心的な役割を担っていましたし、名古屋支店抗議行動でも先頭に立って私たちのたたかいを支えてもらいました。

小原さんに限らず、私たちは、このたたかいを通して、本部・地協のすべての書記さんと知り合うことができました。各書記さんが、どこで、どういう仕事をしているのか、正確に理解するに至っています。それは、それだけ書記の皆さんの仕事の中心に、私たちのたたかいが位置づけられていることを物語っていますし、それは、とりもなおさず、私たちのたたかいが全損保の組織をあげたたたかいに位置づけられていることの証しでもあります。

本社前で一緒にビラを配っていた書記の方が「俺もゼッケンが欲しい。だってゼッケンをつけた方が受け取ってくれるから」と言ってくれました。財政を担当していただいている書記の方は、深夜、家に帰ると倒れ込むようにベッドの上に仰向けになり、そのままの姿勢で朝を迎えるそうです。

私たちのたたかいを全面勝利させるために、すべての書記の皆さんが一所懸命に動いてくれています。